

# はばだけ！ 広島サンダース

久原 大輝

1945年8月6日の広島への原爆投下から81年を迎えた。今年も、猫田記念体育館（広島市南区）敷地内の慰霊碑に献花をして黙とうをささげ、サンディの皆さんから寄せられた折り鶴もお供えした。慰霊碑の前に立つたび、私たちのクラブが歩んできた歴史の重みをあらためて感じる。

前身である広島地方専売局は爆心地から約2キロにあり、約千人が

## 歴史の重み 未来へ

被爆して40人もの尊い命が失われた。その中には男子排球部員も含まれている。戦後間もない混乱の中、それでも人々は屋外で円陣パスを始め、バレーボールを通じて前を向こうとした。その一球一球が、今日まで続くクラブの原点となっている。

私たちが当たり前のように練習し、試合ができる日常は、多くの犠牲と復興を信じて歩み続けた先人たちの努力の上に成り立っている。結果だけでは語れない歴史が、このクラブにはある。

広島をホームタウンとするクラブだからこそ、平和への願いを胸に競技へ向き合い、思いを次の世代に伝え続ける責任がある。バレーボールを通じて、広島から平和の尊さを発信していくことも、私たちの大切な使命だ。先人から受け継いだ歴史を未来へつなぎながら、これからも歩み続けていきたい。

（広島Tマネジャー）

献花する新井雄大主将（右）と折り鶴を  
供える金子聖輝副主将（左）

